校長室から　15（season２）　「STEAM 教育や AI 教育に対する理解を深める」
～「アクセンチュア」による職員研修会～

前回のコラム(校長室から 14)で紹介しましたコンサルティング会社(「アクセンチュア」)による、第１学年対象の出前授業の流れを受け、令和５年８月 24 日に、これからの STEAM 教育や AI 教育に対する理解を深めるために、職員研修会を行いました。

アクセンチュアの紹介から始まり、AI の潮流、今後求められる人材とは？、データを扱う人間として知っておくべきいこと等、大変示唆に富む講演内容でした。

講演を受ける中で、生成系 AI が急速に成長するこれ会の時代にはどのような能力が求められるのか。今後の教育現場でどのような AI 教育が必要とされるのか。AI を正しく利用するために必要とリテラシーは何か。等々、様々な疑問や新たな気づきが頭の中に浮かび、これからの学校教育の在り方を探るきかっけとなるものでした。

参加した職員の意見や感想を紹介します。

「一つ一つが難しいこともありましたが、過去から現在の変化からこれからの変化まで改めて確認することで、さらなる変化が訪れることを切実に感じました。」

「自身の知識のなさを改めて思い知らされました。AI 技術の発展は我々の生活を豊かにする反面、使い方を誤ると簡単に我々が利用されてしまうことにも気づかされました。まだまだ、教育現場は社会の流れに乗り切れていないのが正直なところだと思いますが、今日の講演を聞いて、刺激を受けた職員も多々いると思いますので、人間にしかできない強みと AI による強みを相互に作用させて子どもたちに還元していきたいです。」

「これからの教師として、また生徒に必要な教育のため、学ぶべき内容の多い講演でした。」

「今回の講演を機会に、見識を広げ、生成系 AI を取り入れるなどより充実した取組ができるようになりたいと強く思いました。」

本校は県立高校改革実施計画（Ⅲ期）の取組に位置付けられている「ＳＴＥＡＭ教育」研究推進校として、「探究的な学びをどのように実践するか」「教科を横断した学習を通じて課題の発見・解決能力を育むにはどのような仕掛けが必要か」など、学校全体の組織として研究を行っています。

探究的な学びや教科横断的な学びを推進するためのツールとして AI の活用法や例えば協同的な学びとしての話し合い活動の中に AI を入ることで議論を充実や論点の軌道修正など、様々な可能性が考えられます。

まずは、高校生たちが学びの中で感じている課題解決にアプローチできる AI 機能を体験する機会を増やすことが肝要であると考えています。

令和 5 年 9 月 26 日